

研究成果情報 (平成2年度)

技術・情報名	なし「筑水」の着果制限及び簡易被覆による大果生産技術	部会名	果樹
実施機関名	三重県農業技術センター園芸部	分類	2

1. 技術・情報の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

果樹試で育成された筑水の果実品質は良好であるが、樹勢が弱く、果実が小玉であり、収量性も幸水よりやや劣る傾向がある。そこで、大果生産を目的とした試験を行い、ある程度の成果を得た。

- ① 摘果時期が早期であっても普通に比べて果実肥大に差はなかったが、摘蕾によって果実肥大効果は大きかった。(第1図)
- ② 簡易被覆栽培を行うことによって果実は約2割大きくなった。(第2図)
- ③ 4～7果叢に1果の着果量とした範囲での肥大には差はなく、平均果重は290g前後になった。年度は違うが、3果叢に1果の着果量とした場合の肥大は悪く、平均果重は220gにしかならなかった。(第1表)

以上の結果、筑水の果実肥大に及ぼす効果は摘蕾と簡易被覆において大きかった。着果程度は4果叢に1果(葉果比3.0)程度の着果量が適当と思われるが、さらに検討が必要である。

2) 技術・情報の適用効果

筑水の大果生産技術として、摘蕾と簡易被覆が利用できる。

3) 普及・利用上の留意点

筑水の着果基準の設定については、光合成等生育特性を解明の上で、さらに検討すべきである。弱樹勢回避対策については、土づくりや中間台の検討、早期樹冠拡大、整枝剪定法等の技術確立を行い、あわせて筑水に適した植栽間隔も設定すべきと思われる。

2. 具体的データ(図・表)

処理区	収穫期(月/日)											階級割合(%)	平均果重(g)										
	8/2	3	4	5	6	7	8	9	10	11													
摘蕾+普通摘果	始	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	終	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	265*
早期摘果	始	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	終	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	221*
普通摘果	始	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	終	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	220*

注) 英小添字はDuncan's multiple range test(5%)により異符号間に差有り
第1図 摘蕾・摘果時期と収穫期、階級割合及び平均果重(三重農技セ、平成元年)

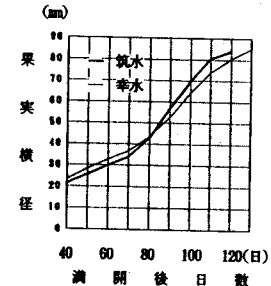
処理区	収穫期(月/日)				階級割合(%)	平均果重(g)						
	7/25	8/1	5	10								
簡易被覆	始	—	—	—	終	■	■	■	■	■	■	258*
露地	始	—	—	—	終	■	■	■	■	■	■	219*

注) 英小添字はDuncan's multiple range test(5%)により異符号間に差有り
第2図 被覆、GA処理と収穫期、階級割合及び平均果重(三重農技セ、平成元年)

第1表 着果基準と収穫期及び平均果重(三重農技セ、平成2年)

処理区	平均収穫日(月/日)	平均果重(g)
4果叢1果(葉果比32.3)	8/2	289
5果叢1果(葉果比39.8)	8/3	292
6果叢1果(葉果比47.7)	8/2	287
7果叢1果(葉果比55.8)	8/4	300

注) 満開30日後の仕上げ摘果時の葉果比
英小添字はDuncan's multiple range test(5%)により異符号間に差有り



第3図 果実直径肥大推移(三重農技セ、平成2年)

3. その他特記事項

研究課題名: 筑水の早期出荷技術の安定化

研究期間: 平成元年～平成2年

予算区分: 県単

研究担当者名: 果樹研究室 大槻健二、前川哲男